職人になる！

未知に挑む三本の道

いわゆる「職人」と呼ばれる技術者を養成する学校がある。景気低迷の中で資格取得はキャリアアップや就転職に有利と言われ、セミナーやスクールなど「お稽古ごと」は人気だ。それでは職人養成校は一体どのような内容で、どのような技術が身に付くのだろうか。県内外の３校をのぞいてみた。

修了制作は家一軒

大工育成塾

大工育成塾（東京都港区）が運営する「大工育成塾」は見て学び取るイメージが強い木造建築職人を体系的に養成している。3年間で理論と実技を組み合わせながら学ぶ。入塾資格は18－25歳で技術的な資格は不要。工務店の二代目が家業を継ぐ目的もあるが、多くはモノづくりへの高い関心から入塾してくる。国土交通省の支援事業でもある。

２００３年から福岡のほか東京と名古屋、大阪で毎年合計１００人が入塾する。少数だが女性もいる。7割が普通科高校からの進学。他の3割は工業系高校や専門学校、大学卒の経歴だ。中には大学の建築学科を卒業後、木造建築を学ぶための塾生も例年いる。

入塾後は塾生一人に工務店の棟梁（とうりょう）一人が付く。平日は工務店の日常業務を通した現場修業。加えて3年間で60日程度はオリジナル教科書を使い、合宿形式の集中講義で理論を学ぶ。集大成である3年目の修了制作は、全国各地で技術を磨いた同期生が力を合わせて一軒の家を築く。棟梁や卒業生が集まり、約2週間にわたり制作。建てるのは実際に施主が住む物件で、手も気ももちろん抜けない大仕事だ。

修了後は「大工志（だいくし）」という独自の称号を与えられる。文字通り「志」を抱きながら、指導を受けた工務店に就職するケースがほとんどだ。その後数年で独立する人もいる。

一般的な徒弟制度では若い職人が少なく同期がいないことが多いが「仲間ができることが一番のメリットだ」（福岡塾事務局）という。職人のネットワークに加えて、木造文化の将来も築かれている。

伝統と革新の技術者養成

博多織デベロップメントカレッジ

博多織デベロップメントカレッジ（福岡市博多区）は、福岡の伝統工芸品・博多織の手織り技術者を養成している。機械織りが増えたなかで、２００６年に博多織の業界団体が後継者育成のため開校。毎年、10人の募集枠を超える応募が全国から集まる。

入学資格は原則35歳まで。ほとんどが織物や服飾と関係のないキャリアを持つ。勤める企業を辞めて入学を希望する人が少なくない。また手織りの博多織はもともと力が必要な、男の世界だった。だが例年、学生の約9割を女性が占める。

カリキュラムは「創造と自立」がテーマで、2年間の課程で月―土曜までみっちり学ぶ。織りや染め、デザインの技術だけでなく、背景となる文化や歴史としてファッションに音楽、伝統芸能など感性も磨く。また経営にメディア戦略、販売実習といった、卒業後を見据えた内容を含むのが特徴。講師陣は学長である人間国宝の小川規三郎氏をはじめ、地場を中心に第一線で活躍する人々だ。業界、地域のバックアップ体制がわかる。

授業料の年間70万円のほか、材料費など同30万円がかかる。また長期休暇は正月とお盆のみで「休日も自分の感性を磨く時間に充てるよう勧めている」（事務局）など、卒業までには相当の努力が必要だ。卒業後はメーカーへの就職のほか、独立を選ぶ学生が多い。また希望すれば1年間は研究科に進み、さらに腕を磨くシステムもある。

博多織は約８００年の歴史を持ち、主に着物の帯に使われてきた。ただ近年は着物自体の市場縮小とともに業界にとって厳しい状況が続く。一方で卒業生は、従来の伝統の型にはまらない色づかいを生み出すなど、伝統技能の世界に新風を吹き込んでいる。

産地で技と感性磨く

有田窯業大学校

佐賀県立有田窯業大学校（佐賀県有田町）は、１９８５年の開校以来、約１９００人の陶磁器産業の製造技術者を輩出してきた。陶磁器専門の専修学校としては全国で珍しい機関。日本の磁器発祥の地である有田にあるのが大きな強みで、堀賢太副校長は「学校から外に一歩出れば伝統産地の風に当たることができる」と、力を込める。また公立のため授業料が安いのも特徴だ。

学科は1年制、2年制、4年制がある。新卒高校生から未経験の社会人、経験者まで幅広く受け入れる。県内や隣県からの入学者が中心だが、他地域から移住する人もいる。年齢は10代、20代、30代がそれぞれ約3割ずつを占める。

2年制と4年制の専門課程は主に未経験者を対象とする。陶磁器の歴史や原材料、釉薬（ゆうやく）など基礎から習得できる。校長の14代酒井田柿右衛門氏はじめ井上萬二氏、中島宏氏ら有田が誇る人間国宝が特別講師に名を連ねるなど、講師の層が厚い。

同時に技術だけでなく、感性も必要だ。美術大学を卒業後に入学する学生もいるため、キャリアの差が出てくることはある。だが授業終了後や休暇中の努力で追いつく学生が多いという。座学以上の経験を積むためにも、産地内に立地している意味は大きい。

有田焼はピーク時から見れば、出荷額が低迷しており、窯元を含めて苦しい状況にある。一方で卒業生の多くは、有田や県内外の産地で窯元やメーカーに就職しており、人材としての期待度は高い。在学中にインターンシップ（就業体験）を通じて、自分を売り込むチャンスがあるなど、業界との距離は近い。

覚悟あれば夢近づく

「不景気になると入学応募が増える」という声がよく聞かれる。求職数の減少とともに、企業への就職から腕に技を身につけた職人の世界に目標を変える動きの一つだろう。

一方で景気に関係なく企業のキャリアを捨てて、飛び込んでくる人々が少なからずいるという。配偶者や子どもを抱えながらも、夢を諦めきれなかったり、人生の転機を見いだしたり、理由はさまざまだ。

だが、そうして入学する人々に共通するのは、それだけの覚悟を持っているということだ。学校に入学したからといって、将来が約束されるわけではない。だが覚悟さえ持っていれば、職人への道が近づくことは確かだ。

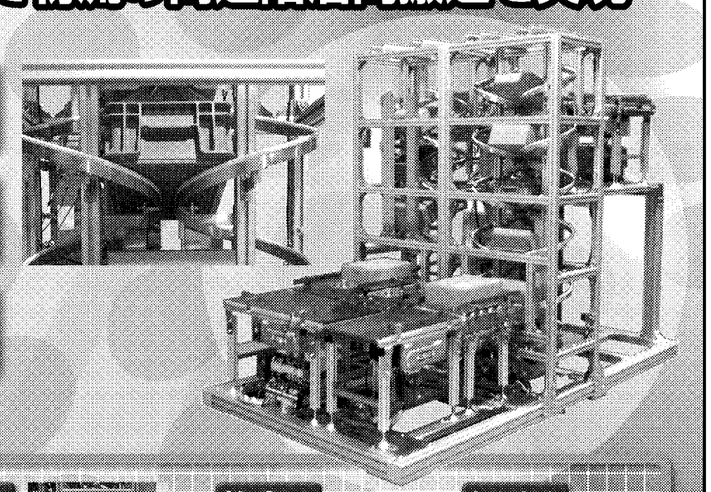
第一施設工業株式会社
Daiichi Institution Industry Co., Ltd.
スパイラルリフター　垂直連続搬送機
（特願 2012-261583）

Simple & Speedy
～低コスト、省スペースで物流の高速階層間搬送を実現～

●最大1,500個/Hrを誇る高搬送能力
世界最速級レベル：当社垂直連続搬送機比で3倍のスピードアップ※
※搬送物長さ L300mmの場合

●ローイニシャルコスト&ランニングコスト
シンプルメカニズムで低価格での導入・運用・保守を実現しました

●高い省エネ性能
シンプルメカニズム+小容量モーターが高いエコ性能を発揮します



主な特徴
省スペース　省スペース設置可能　搬送物サイズと昇降距離をヒアリングの上、現場に応じたオーダーメイドが可能です
搬送物を汚さない　駆動部下置きで搬送物を汚さない（搬送物へのオイル飛散の心配が要りません）
静音　低騒音仕様
頑丈　高耐久性
かんたんメンテ　簡単メンテナンス（ギヤのグリスアップのみ、オーバーホール費用も僅かです）

第一施設工業株式会社
本社・工場
福岡県粕屋郡新宮町大字上府776-17
TEL：(092)941-7600　FAX：(092)941-7610
■第23回西日本食品産業創造展'13に出展・実演！(5/15～17マリンメッセ福岡)■
東京支店
東京都千代田区外神田5-1-5国際ビルディング4F
TEL：(03)3834-5752　FAX：(03)3834-5753　担当：田中
第一KOREA株式会社
韓国大田広域市儒城区官坪洞710
TEL：+82-42-935-7731　FAX：+82-42-935-7931　担当：赤川、白
URL　http://www.daiichi-shisetsu.co.jp　E-mail　dsk@daiichi-shisetsu.co.jp

防衛省 MINISTRY OF DEFENSE
多種多様なニーズに即応する
退職自衛官　雇用のすすめ！
守りたい人がいる　陸上自衛隊

健全な精神・強い責任感　磨かれた技能　豊富な経験・知識　優れた企画力・高い指導力
企業発展に自衛官
～地方公共団体・一般企業等の幅広い分野で貢献～
防災・危機管理　保安警備　施設管理　福祉介護　輸送　通信　一般事務
陸上自衛隊 西部方面総監部 援護業務課
http://www.mod.go.jp/gsdf/wae/　退職自衛官の詳細については　退職自衛官　検索
お問い合わせ先　TEL.096-368-6220（FAX兼用）